

ソフトボール指導における安全について

埼玉県立越谷南高等学校

齋藤 紗希

ソフトボールは道具を使用する競技であるため、道具の使用方に注意する必要がある。今回はソフトボール競技における安全分野をルール・道具・指導の面から考え、実践結果をまとめた。

1、ルール

(1) ネクストバッターズサークル

ソフトボールは守備と攻撃を交互に繰り返し得点を競う競技だが、競技を行う上で打球が様々な方向へ飛ぶ可能性がある。攻撃の際に次打者がネクストバッターズサークルで順番を待つことになっているが、その際打席からの距離が比較的近い為、ファウルボールに当たってしまう場合がある。確率としては打者の引っ張る方向へのファウルボールより、流す方向へのファウルボールが飛ぶ可能性が高い。その為次打者は各チームのベンチ前にあるネクストバッターズサークルで待機する際、どちらのネクストバッターズサークルで待機しても良いというルールになっている。従来は自チームのベンチ前にあるネクストバッターズサークルで待機することになっていたが、ルールの変更により、両方のネクストバッターズサークルで待機が可能となった。作戦として相手チームベンチ前のネクストバッターズサークルで待機するということがあがるが、試合の際に実践したところ、ファウルボールの打球に当たるといったことが減少した。

2、道具

(1) ダブルベース

ベースボール型の競技であるソフトボールは野球と同様に、4カ所にベースが設置されている。そのうちの1カ所、ファーストベースはベース二つ分の大きさのダブルベースとなっている。ルールの分野に入る部分でもあるが、守備者が打球を処理する際は白色のベースを踏むことになっており、打者走者はオレンジ色のベースを踏むことになっている。それにより、守備者と打者走者が接触し怪我をしないように考えられている。実際に試合中もダブルベースにより、ほとんど守備者と走者の接触はないが、守備者の送球が逸れた際には多少の接触という場面があった。

(2) ヘルメット・キャッチャー防具

バット・ボールを使用する競技であるため、打球や投球に当たることや、バットに接触してしまうことがある。試合においても、打者と走者は必ずヘルメットの着用をする。バッティング練習時にも必ずヘルメットを着用させる。それにより、ボールに当たったことによる怪我は防止できている。キャッチャー防具に関して、着用はキャッチャーのみだが、ヘルメット同様、ボールが当たったことによる怪我を防止している。

(3) ネット

守備練習・打撃練習を行う際にボールを何球も使用することがある。それにより、打球が数カ所から飛んでくることがある。防球ネットを設置することにより、グラウンド場の選手にボールが当たってしまうことが無くなった。又、マシーンを使用する際も、球出しをする物がネットの使用で打球には当たらない。

3、指導

ルールや道具が整っていても、使用方法等を誤れば事故や怪我に繋がってしまう。経験豊富な選手であれば、打球の飛ぶ方向や危険も考え、回避することができるかもしれない。しかし、部活動を行う上で全ての選手がそういった事を理解し、動けるわけではない。指導者として部活指導を行う際に最優先すべきことが安全への配慮である。ネクストバッターズサークルの待機の仕方や場所も指導することで打球への接触が避けられた。道具の使用法や防球ネットの設置場所等への配慮も、指導者に必要とされるものであると考える。又、バットスイングをさせる際も、周囲に人が居ないことを確認させ、行うことで接触による事故を防いでいる。

4、まとめ

安全分野に関しての実践報告をしてきたが、配慮して部活動を行っている為、怪我等の事故は発生しなかった。指導者として事故が発生する前に危険を予測し対処していくことが必要だと考える。今後の活動においても安全に配慮していきたいと考えている。ルール等も改訂されている為、試合時間短縮のみならず、安全に配慮したルール設定も必要だと考える。